

自分の周りの人を思い浮かべてください。
その中に、外見も性格も、
あなたと全く同じ人はいますか？

いませんよね。人間は、みんな一人ひとり違っています。その中には、見ることや聞くこと、体を動かすことに不自由があったり、人とコミュニケーションをとることが難しかったりする人もいます。その人はもしかしたら、普段の生活を送るのに、大変な思いをしているかもしれません。

その人の状態や特徴と、社会環境等との間に困難が生じているとき、それを「障害」と言います。

ですから、障害のある人たちは、それぞれの状態や特徴に応じた適切な支援を受けることで、他の人と同じように、社会生活を送ることができるのです。

学校に通う年齢の子どもに、学習上や行動上の困難がある場合は、その子の状態や発達段階に応じて、教育の内容や方法を変える必要があります。

これが、「特別支援教育」です。

特別支援教育では、その子に応じた指導や支援を行います。これにより、子どもの多様性を大切にして、その子の持つ可能性を引き出すことができます。



特別な支援が必要な子どもは増えている。



特別支援教育の対象となる子どもの数は、年々増え続けています。

背景の一つには、「障害」に対する社会の理解が深まっていることが挙げられます。2007年には、特別支援教育が法律の中で位置づけられ、全ての学校で、一人ひとりの子どもに応じた、適切な指導や支援を行うことが定められました。

また、小中学校の通常の学級にも6.5%の割合で、発達障害【[右ページコラム](#)】等の子どもが在籍しているという調査結果もあり、全ての学校において、特別支援教育の必要性は高まっています。今やどの学校も、特別支援教育に取り組むことが求められています。

群馬県の特別支援教育対象の児童生徒数

いずれの学びの場でも、在籍者・通級者の数は右肩上がりです。少子化で、全体の子どもの数は減っている中であって、特別支援教育を受ける子どもの割合は、大きく増えていると言えます。

様々な学びの場がある。

一口に「特別支援教育」といっても、子どもの状況や、障害の程度に応じて、教育の形態は様々です。

特別支援学校は、視覚や聴覚、身体等の障害のため、学習上又は行動上の困難がある子どもに対して、専門的な教育を行う学校です。

近くの学校の教職員や保護者の相談に応じる役割もあります。

特別支援学級は、小中学校の中にあります。

障害の種類や程度に応じた、少人数による指導が行われています。

通級指導教室に通う子どももいます。

小中学校の通常の学級に在籍し、ほとんどの授業をそこで受けながら、障害の状況に応じた特別な指導を、週あたり数時間、この教室で受けています。

高等部では、生徒の社会自立を目指し、職業教育にも力を注いでいます。

群馬県は、早期から高等部の設置を進めてきたこともあり、全国と比較して高い就労率を実現しています。



吾妻特別支援学校

昨年4月に開校しました。
特別支援学校は、県内全ての地域にあります。



また、**通常の学級**で、他の子と一緒に学びながら、特別支援教育を受けるケースもあります。

子どもの特性に合わせ、わかりやすい指導や、教室環境の整備を行っています。